

エタノールによる経皮経肝門脈塞栓術の治療効果の検討：

アジアロシンチグラフィを含めて

—後方視的、単施設検討—

1. 研究の対象

2002年10月から2018年5月の間に、門脈塞栓術を施行された方。

2. 研究目的・方法

肝臓に発生した悪性腫瘍を手術で切除する際、手術後に残る肝臓の機能が不十分な場合は術後肝不全となってしまう、時に命に関わります。この問題を回避するために、残る側の肝臓の機能を手術前に増加させる方法として、手術で切除する側の門脈血流を止める門脈塞栓術が行われます。

手術後の肝臓の機能は様々な検査データから手術前に予測されますが、近年、生存している肝細胞数を反映すると考えられるアジアロシンチグラフィという画像検査も用いられてきており、当院でも肝機能の評価に使用されています。

門脈塞栓術にあたっては、門脈の血流を止める物質(塞栓物質)にはいくつかの種類がありますが、それぞれの性質が異なり、治療成績や有害事象(合併症)にも差異が生じます。当院では門脈塞栓術の塞栓物質にはエタノールを使用しています。エタノールによる門脈塞栓術の治療成績の報告はこれまでいくつかありますが、アジアロシンチグラフィの検査結果を含めた報告はほとんどありません。

本研究では、当院で肝臓悪性腫瘍の手術前にエタノールによる経皮経肝門脈塞栓術を行った患者様を後ろ向きに解析し、アジアロシンチグラフィの検査結果を含めた治療効果や有害事象を検討する事で、今後の門脈塞栓術の術前の治療効果の予測や有害事象の予測などに還元していく目的で行います。

解析対象となるデータ(採血検査結果、画像検査結果など)は、カルテ情報、画像検査情報から収集するものとし、本研究実施にあたって追加で受けていただく検査、治療はありません。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、採血検査結果、画像検査結果、門脈塞栓術の手技所見 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒010-8543 秋田県秋田市本道1-1-1

秋田大学医学部附属病院 放射線診断科

Tel: 018-834-1111 (病院代表)

研究責任者：戸沢 智樹

-----以上